

ビケンワクチンニュース

【2003年12月号】



予防接種で、インフルエンザに負けないぞ！

～今冬のインフルエンザ総合対策について（平成15年度）～

厚生労働省は、**<予防接種で、インフルエンザに負けないぞ！>**を標語とし、今冬のインフルエンザ対策に取り組んでいくことを宣言しています。

その具体的な対策として、インフルエンザに関するインターネットホームページを開設し、電子媒体で配給可能なポスターの制作、インフルエンザ“QandA”の作成・配布を行うと共に、施設内感染防止対策の推進の一環としてインフルエンザ施設内感染予防の手引きの作成、NPO法人バイオメディカルサイエンス(バムサ)にインフルエンザ、SARS相談窓口の設置を行っています。

この窓口の開設時期は、平成15年10月20日～平成16年3月19日で、インフルエンザの一般的予防方法、流行状況やインフルエンザ予防接種の意義、有効性、副反応等に関する疑問に答えてくれます。

また、その他の対策として、他の患者への感染拡大の防止のため、咳などの症状を有する方が医療機関を受診する際は必ずマスクを着用するよう、呼びかけることにしています。

このホームページのアドレスは(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1.html>)です。

インフルエンザとSARS（重症急性呼吸器症候群）



共通点	初発症状（突然の高熱、筋肉痛、全身倦怠感など） ヒト以外の動物にも感染する。			
	比較項目	インフルエンザ	SARS	
相違点	病原体	インフルエンザウイルス	SARSコロナウイルス	
	潜伏期間	1～3日	2～10日	
	感染力の強い時期	症状が出てすぐの時期	症状が出た翌週の肺炎期	
	感染の可能性	集団生活を営むもの(就学児童を含む)で感染する可能性が高い	医療従事者は院内感染による感染の危険性が高い	
	年齢	年齢には関係ない。 ただし65歳以上の高齢者、欧米では6ヵ月から24ヵ月未満の乳幼児の重症化率が高いことが報告されている	小児の患者はほとんどみられていない	
	経過*	1週間前後で軽快	発熱の持続。発病第2週頃より呼吸器症状が強くなり、10～20%は人工呼吸器が必要なほど重症化する	
	ワクチンの有無	あり	なし	
治療	抗ウイルス剤やノイラミニターゼ阻害剤を発症後48時間以内に投与する	効果的な治療方法は、現段階ではない		

*インフルエンザであっても重症になれば肺炎を併発し、SARSも軽症であれば、1週間程度で軽快しますので、単純に症状のみから区別することはできません。

(<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/sars03w/home.html> , <http://idsc.nih.go.jp/others/topics/inf-faq.html>)



企画編集 : 財団法人阪大微生物病研究会 (<http://www.biken.or.jp>)
12月号担当 : 藤田, 福田, 村木, 井下, 上野, 片桐
発行 : 財団法人阪大微生物病研究会 / 田辺製薬株式会社

▲上記本文中のホームページの内容に関するお問い合わせは、お受けしておりません。



BI-S057-0312B03